

村の世帯・人口

1970年11月末日現在

総世帯数 2,055戸

人口 10,601人

男 5,347人

女 5,254人

当月の人口移動

出生 25 死亡 5

転入 31 転出 3

婚姻 14 離婚 2

火の用心

小さい火にも

大きな注意



はらに報広

発行所
西原村役所

電話 (095) 2401
2582・2583

印刷所
中部印刷 K K
電話 (077) 4464

主なもくじ

1	年頭の辞.....	1
2	新収入役誕生.....	2
3	火の用心ノ村消防団新春の出初式.....	2
4	勲記、勲章伝達式.....	2
5	中部普及事業実績発表会.....	4
6	坂田小学校に三千五百ドル贈る.....	7
	沖繩エッソスタンダード株式会社	
7	百万人の暮らしに生きるOHKからのお願い.....	7



本誌に於ける

人口・世帯の増

1970年11月末日現在

総世帯数 2,029戸

人口 10,601人

男 2,347人

女 2,254人

当月の人口動態

出生 25人 死亡 2人

転入 31人 転出 3人

婚姻 14組 離婚 2組

大きな注意
小ち火の用心

火の用心

- 1 百人の暮らに生かすOHKの心遣い.....
- 2 中野エッセンス・マテリアル株式会社
- 3 対田小売店に三千五百円の贈り物.....
- 4 中野普賢事業実業家協会.....
- 5 中野、中野、中野.....
- 6 火の用心、火の用心、火の用心.....
- 7 中野、中野、中野.....
- 8 中野、中野、中野.....
- 9 中野、中野、中野.....
- 10 中野、中野、中野.....

主なること

発行所 中野印刷 K K
〒107 東京都千代田区千代田
電話 (03) 4484-5855
〒107 東京都千代田区千代田
電話 (03) 4484-5855

年頭の辞

西原村長

宮平 吉太郎



明ましておめでとうございます。
昭和四十六年輝かしい一九七一年を迎えるに当り、謹しんで新年のごあいさつを申し上げます。

今年もまた村民の皆様にとって「ゆたかな」年でありますよう心から祈っております。旧年中は議会の方々をはじめ村民各位の絶大なる支援とご協力を賜りましたことを心から厚く御礼申し上げます。

村民の皆様には目下キビ収穫に入り大変忙しい毎日ですとにご苦勞様でございます。旧年は沖縄県、内外にとって諸情勢は多くの問題を残した、激動の年でありました。ご承知のように、日米安保条約の改訂をめぐっての県民の政治的論争、本村の議会議員選挙、二八年ぶりに県民が勝ち取った戦後初めての国政参加選挙、年のくれには糸満町でおきた、

米軍人の酒気無謀運転による主婦れき殺事件、相次ぐ米軍人犯罪に対する県民の怒りと、婦人れき殺事件で軍事裁判が非民主的な異民族べつ視のこう慢な事件処理に対する抗議の現われとなつて、コザ市での外人車焼き打ち事件として現われ、内外に大きなショックと、捜査権、裁判権と、基本的な多くの問題を残しました。このように四十五年は沖縄県民にとって非常に大きな問題を残した年でございます。昭和四十六年「亥年」はまさに復帰を目前にした年で多事多難の年になると思われま

す。ご承知のように今年には昭和四十七年沖縄返還に関する日米協定の調印があります。申しあげるまでもなく沖縄返還協定は戦後処理の総括と、日本の政治経済体制へ沖縄をどのように移行するか、完全復帰が実現するまで全県民が丸となつて、返還協定に沖縄県民の心が充分反映した協定が結ばれるよう期待するものであります。

さきにふれましたように昭和四十六年の新春を迎えるに当り復帰前夜の変わりゆく諸情勢に対応すべく内部体制の強化と日本経済の荒波の中で独立し得る経済基盤の整備並びに公共施設の拡充強化を推進する所存であります。ことに市町村土木事業、上水道事業並びに清掃事業、環境衛生の整備、社会福祉事業、農業構造改善事業の推進等、市町村振興計画を早急に進めなければならないのであります。つきましてはこれら多種多様の事業の推進に当り村民一人一人のおしみなないご協力をお願い申し上げますと共に村民各位にとって昭和四十六年もよりよき年でありまうと心より念願いたしました年頭の挨拶と致します。



亥 年

あけましておめでとうございます

西原村議会

議長 親泊 輝武

副議長 与儀 栄

議員 外間 正栄

城間 光雄

新川 正雄

与那城 勲

新垣 貞雄

比嘉 昭幸

宇久田朝秀

小波津亨元

中山 正徳

新垣 盛光

屋良 朝光

稲福 恭助

宮平 定昌

与古田光助

西原村農業

協同組合

組合長 城間 光雄

外職員一同

西原区教育

委員会

委員長 大城 純勝

副委員長 大城 孝敏

委員 小橋川 潔

城間 哲男

翁長 盛助

※※新収入役誕生※※※※

宮平村長は前収入役（安谷屋隆造氏）の任期満了による後任者を建設課長の大城政吉氏を提案、十二月十

五日の定例議会に議会の同意を求めた。



議会、新収入役大城政吉氏

の選任に全会一致で同意



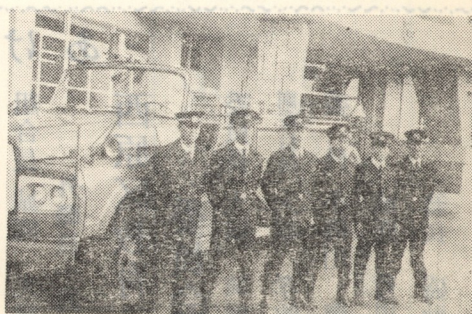
村議会（議長親泊輝武氏）は十二月十五日の定例議会で、前収入役の任期満了による後任の、新収入役に提案された大城政吉氏の人事について審議、大城氏は昭和二十九年二月

役所入りし勤続十七年、その間、総務課長、住民課長、建設課長を歴任した。最適任者の大城氏を新収入役に選任する事に全会一致で同意した。

※火の用心！

村消防団新春の出初式

村消防団（団長下地好克）では一月七日午前七時より役所前広場で昭和四十六年恒例の新春出初式をおこなった。団員二〇人が参加し、服装点検、機械器具の点検、放水訓練等を実施、点検官、宮平村長は（昨年十月から警察局から市町村に移管され自治体消防がスタートしたが、今年は常備消防職員、機能整備の充実をはかりたい、村民をあらゆる災害から守るため、団員各位が火災にぞなえて消火技術の向上を図るとともに村民に予防消防の徹底につとめてもらいたい）と訓辞がありこのあと村内のパレードを行なった。



新収入役の経歴！



収入役 大城 政吉氏（五十五才）
西原村字小橋川三六番地
大正四年十月十二日生、
昭和五年三月西原尋常高等小学校卒業

勲記・勲章伝達式

役所の援護係では十二月八日午前九時より役所二階ホールにおいて戦没者に対する、勲記、勲章の伝達式

をおこなった。遺族をはじめ関係者の方々が出席しておこなわれ、遺族に勲記、勲章を宮平村長より伝達さ

れた。

戦没者氏名 字 名 遺族氏名

与那嶺千代 津花波 与那嶺ハル
玉那覇常栄 嘉手茹 中山 貞信
小波津盛吉 津花波 与那嶺善市
城間 亀松 翁 長 仲宗根カマド
外間 三郎 幸 地 外間 カメ
外間 良義 ” ” 与那嶺シゲ

宮城 秀治 小橋川 宮城 秀夫
宮平 佳侑 我 謝 宮平 シゲ
玉那覇正一 小那覇 玉那覇盛長
下地 幸男 翁 長 下地 好克
外間 定吉 幸 地 外間 正徳
善平 朝盛 兼 久 善平笑恵子

大城 善信 内 間 大城 勝春
仲宗根幸悦 幸 地 与那嶺貞子
城間 カマ 翁 長 城間 善徳
小橋川カメ 与那城 小橋川平昌
玉那覇善吉 小那覇 玉那覇千代
与那城光助 小那覇 宮平 千代

戰波者氏名	字名	遺族氏名
屋嘉比三郎	幸地	屋嘉比朝孝
玉那覇兼宗	内間	玉那覇兼助
渡嘉敷直松	幸地	渡嘉敷松
大城 正徳	内間	大城 嘉三
新垣 三良	我謝	新垣 盛一
伊芸 ツル	与那城	伊芸 盛英
小橋川カマド	与那城	小橋川盛英
大城 ヨネ	小橋川	大城 康秀
喜屋武カマ	桃原	喜屋武盛徳
安谷屋カメ	桃原	安谷屋広英
小波津ツル子	小波津	小波津善栄
小波津カマ	〃〃〃	小波津三郎
与那覇ウシ	津花波	与那覇義孝
大嶺 カマ	小橋川	大嶺 盛義
小波津カメ	小波津	小波津太郎
小波津トミ	小波津	小波津清泰
安里 カメ	我謝	安里 昌徳
安谷屋ウサ	桃原	安谷屋昌夫
大城 ウタ	小橋川	大城 哲雄
嘉手苺メチ	小那覇	玉那覇常吉
呉屋 カマ	呉屋	呉屋 義貞
呉屋 カミ	嘉手苺	呉屋 博正
呉屋 ウシ	〃〃〃	呉屋 光吉
小橋川カマ	〃〃〃	呉屋 キヨ
小橋川カマ	我謝	宮平 亀助
崎原 ツル	掛保久	崎原 盛賢
新垣 カミ	小橋川	新垣 朝繁
比嘉 ウト	津花波	比嘉 則子
宮平 カメ	桃原	宮平 吉英
屋良 トミ	棚原	屋良 朝正
添石 トシ	津花波	添石 良信
稲福カマド	翁長	稲福 堅三
呉屋 シゲ	嘉手苺	呉屋 武夫
呉屋 カメ	呉屋	呉屋 政宏
佐久田ツル	徳佐田	佐久田朝之
城間 シズ	棚原	城間 光正
玉那覇ツヤ子	小波津	玉那覇亀助
小波津トシ子	小波津	小波津盛恒
小波津スミ子	〃〃〃	小波津盛恒
呉屋ツル子	〃〃〃	呉屋カマド
与那覇君子	〃〃〃	与那覇盛光
奥浜 カメ	我謝	奥浜 カメ
呉屋 尚子	呉屋	呉屋 政宏
仲宗根ヨシ	幸地	仲宗根清起
仲宗根チヨ	〃〃〃	仲宗根清起
仲宗根サダ	〃〃〃	仲宗根清起
仲宗根カメ	〃〃〃	仲宗根清起
崎浜 ツル	小那覇	崎浜マサ子
崎原カマド	兼久	崎原 盛助
呉屋 ヨシ子	与那城	呉屋 盛賢
小波津カメ	小波津	小波津三郎
与那覇菊子	〃〃〃	与那覇盛光
与那覇信子	〃〃〃	与那覇盛光
呉屋 タケ	嘉手苺	呉屋 キヨ
大嶺シゲ子	小橋川	大嶺 盛義
小波津ツル子	小波津	小波津亀
小波津ヒデ子	〃〃〃	小波津清
仲宗根ウシ	翁長	仲宗根栄信
屋良ウサミ	上原	屋良 朝昭
国吉 ウシ	上原	国吉 真勝
喜屋武ウシ	桃原	喜屋武久太郎
呉屋 カマ	呉屋	呉屋 貞徳
安谷屋カマ	桃原	安谷屋長勇
新川 タケ	掛保久	新川 仁一
安座間キヨ	徳佐田	安座間スミ
糸数ヨシ子	翁長	糸数 精吉
糸数 カミ	〃〃〃	仲宗根正吉
伊波 ツラ	棚原	伊波 康雄
新垣 和子	翁長	新垣 文
城間 ウメ	〃〃〃	城間喜三郎
城間 ヨシ子	〃〃〃	城間 清永
城間 スミ	安室	城間 清一
城間 カメ	内間	城間 信一
城間 トヨ	翁長	城間 精徳
大城トミ子	内間	大城カマド
大城 カミ	〃〃〃	大城 次郎
呉屋 ウト	小波津	呉屋 泰市
城間ツル子	翁長	城間 英吉
沢砥 カマ	〃〃〃	沢砥 昌直
当山 ハル	小那覇	当山 全保
仲宗根ウト	猿長	仲宗根三郎
中山 カメ	嘉手苺	中山 貞信
外間 トヨ	幸地	外間 博
外間 ツル	〃〃〃	外間 カメ
宮平 良子	池田	宮平 審光雄
宮平カメ子	兼久	宮平 吉太郎
宮城 ナベ	小橋川	宮城 良信
宮城 カナ	〃〃〃	宮城 ウト
宮平カマド	与那城	宮平 仁王
宮城 カミ	小橋川	宮城 三郎
宮平カマダ	小那覇	宮平 太郎
与儀 カマ	内間	与儀 勝望
与那覇ウシヤ	幸地	与那覇誠孝
与那覇富士子	〃〃〃	翁長 マカ
稲福 トシ	小橋川	稲福カマド
大城カマド	兼久	大城 孝敏
大城 カメ	小橋川	大城 真一
大城 信	〃〃〃	大城 真一
大嶺 カミ	〃〃〃	大嶺 ミチ
大嶺トヨ子	津花波	小橋川賀真
大嶺 キヨ	小橋川	大嶺 盛義
大城 カマ	〃〃〃	大城 ナベ
大城ヨシ子	〃〃〃	大城 栄徳
大城カマド	津花波	米山 則子
喜屋武カマ	小那覇	玉那覇ツル
呉屋 カメ	小橋川	呉屋 朝昌
呉屋カマド	〃〃〃	呉屋 清
佐久田カメ	徳佐田	佐久田朝清
佐久田千代	〃〃〃	佐久田朝清
大城 テル	小橋川	大城トミ子
城間カマド	棚原	城間 義典
宮里カメ子	〃〃〃	宮里 武雄
城間ヒデ子	〃〃〃	城間 光正
比嘉 ツラ	小橋川	比嘉 貞助
宮城 富	〃〃〃	宮城 栄義
大城 貞	〃〃〃	大城 康秀
宮城 カミ	〃〃〃	宮城 秀子
与儀 ヨシ	津花波	与那覇トミ
大城 オト	内間	大城 清栄
佐久田ヨシ	徳佐田	佐久田朝徳
安座間ツル	森川	許田カマド
許田 春子	〃〃〃	許田 ウト
許田 ツル	〃〃〃	喜屋武貞子
許田ウメト	〃〃〃	許田 盛徳
諸見里三郎	兼久	諸見里安盛
与那覇好子	幸地	与那覇三郎



中部普及事業実績発表大会

野国昌敏、官平初子さんが参加

去る十二月十六日コザ琉米親善センターにおいて中部普及事業実績発表大会が開催され、本村から字池田出身の野国昌敏さんと兼久出身の官平初子さんの二人が参加した。

この発表会は農業経営の合理化のために不断の努力を続けている農研ク

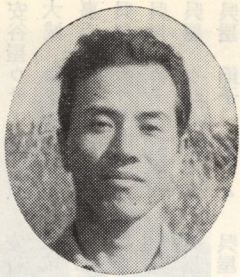
ラブ、四日クラブ、生活改善グループ員の実践活動の研究成果を公開発表し、相互の知識及び技術の交換の場とすると共に広く普及事業の推進意欲を高めることが大会のねらいである。本村から野国さんが養豚を主体とした私の農業経営、官平さんが

グループ活動で得た積立金の工夫という課題で発表、それぞれ農林局長より表彰を受けた。発表の内容を御参考いただくよう、御紹介致します。

※養豚を主とした私の農業経営

西原村池田農研クラブ

野国昌敏（三四才）



私の部落は、今から一五〇年前首里から移住した土族農家が多かった

が当時は農業生産に意欲がなくあまり発展しなかった。最近では農業に従事する者は兼業農家が多く、那覇

に近く、戸数四九戸、人口三一四名の小部落であります。一戸平均五〇アールの耕地面積を有し、私の農業経営は甘蔗、野菜、さらに養豚を

組合せた経営をしています。現在は生活の向上に伴い第二次、第三次産業の発展により、わかい青年が年々他産業に行き農業は老令化の傾向をきたしております。私の部落は小さな部落ですが、農研クラブが中心になって部落全体一致団結して今年も第七回部落向上会を開催しました。

これによって部落の生産性も年々向上しています。次にこれだけの経営をするにあたりまして私の家族構成を申しあげますと母（六六才）妻（三四才）それに私、子供三名の六人家族であります。私の農業経営は耕地面積一三三アールのうち、甘蔗六〇アール、野菜四〇アールで甘蔗は養豚飼料用として経営しています。

私が養豚と野菜作りを始めたのは一九六七年池田農研クラブが結成しました後、部落の幹部と村ならびに普及員さんの方からいろいろと指導を受けてから四ヶ年の経験で日

はまだ浅いのでありますが、その以前は甘蔗作りを大工の兼業農家で農業収入がとほしく、糖価は下落し、人件費は値上り、今までの農家の収入では生活は出来なく、養豚と野菜作りは技術が入りますので施肥、農業

散布、収かくまでいろいろな技術が入りますので農研の定例会、講習会、先進地視察の見学などを行ない技術の向上を図り野菜はハウス三棟を設置し、他に露地栽培三〇アール

を有しています。養豚にあつては母猪ランドレース五頭を飼育し、年間子豚八〇頭を生産していますがその飼料対策としましては甘蔗三アールと野菜の収穫時の残余で自給飼料として補っていますので購入飼料としましても節約になり、甘蔗、野菜（農産物）収入と養豚（畜産物）の収入をかんたんに図表で示しますと次のとおりであります。次に養豚関係の問題については、品種の改良であります。従来私達の部落では在来種がほとんどでありましたが、最近ではほとんど改良種のランドレースのメスにかわり、従来の在来種がす

がたを消し、この養豚の品種改良のため私達の村でも種畜改良の目的で村有豚として先進地具志川市から導入され、私も村からランドレースのメスブタ一頭を借受けました。

これも村の規程によりまして契約し二カ年間飼育し、よい種畜生産し広く地域養豚農家の方々に配布することにより、部落養豚の発展も大きく期待されます。今後私の養豚五〇頭牛三頭まで増殖を計画し、部落の発展と村畜産とそさい作の発展のため大きく役立てたいと思います。どうか皆様方のあたたい御指導と御援助をたまわりますよう御願ひ申し上げ私の発表を終わらせていただきます。

私達の部落は西原村の東南部にあり、戸数一四六戸、人口六九〇名で農家戸数五八戸、一戸あたりの耕作



宮 平 初 子 (四三才)

西原村栄生改グループ

て得た積立金の工夫

グループ活動を通し

面積は二七アール程度の細農家の集落で、その大部分が兼業を営む部落でございます。私達のグループが結成された動機は（合理的な生活を営むためには実践活動をしななければいけない（という向上心にもえた一部）の婦人同志が集まって一九五七年二名余で結成されました。当時のグループ活動としては、衣、食、住、その他の問題を取り上げて、なにか

と不自由を感じながらもどうしたら少しいのでもよりよく利用出来るだろうかと集まるたびごとに話し合いを持ち、グループの組織活動にも理解力がとぼしく、普及員さんの御指導のもとに身近にあるものを利用しての講習会を持ちました。

グループ活動を通していろいろ勉強するうちに意欲が出て自分達で問題を見つけ出し考えて実行していくとグループ活動がいくらか理解出来るようになり、一九六三年にはグループ機合を利用して台所の改善、機具購入、ふろ場の新造築等の資金として生活改善もしました。このようにグループ活動が軌道にのりかけようとした、一九六七年～一九六九年までの二ヶ年余普及員さんの退職により、西原村は普及員さんが不在となって土台のしっかりしていなかった私達のグループも活動がみだれがちになり自分達だけではやっていけないと辞めた会員も出てまいりました。そうした中で私達残った会員十五名は、どうしたらこの問題を解決出来るかと話し合った結果、自分達で自主的に活動をする以外に解決する方法はないとの意見でグループの定例会も毎月三日と決め、会合の場所も輪番制にして活動をすすめてまいりましたが、全員がそろって集まらないのでなんとか集まる方法はないものかと考えました。そこでふと新聞の記事を思い出しました。一九六九年六月二十八日の朝刊で見た三年計画で毎日十セント貯金をしていく恩納村の生改グループの記事や読谷村の生改グループが毎月二セントの日掛け貯金で本土旅行をしたこと等を話しました。私達も三年計画で一日十セントの積立金で本土旅行をしてみようじゃないかと話し合いました。わずかに二セントの貯金でも根気強くやればあとはものになるだと十五名の会員で一九六九年七月三日に結束いたしました。買い物つり銭を毎日十セント貯金するようにして毎月十日には会長が集金に当たって

第一表 野菜の収益表

自1969年 1月の1ヵ年
至1969年 12月

種類	品種	面積	単価	収入	支出	差純 引益	備考
ピーマン	すい玉	5アール		\$ 1,200.00	\$ 200.00	\$ 1,000.00	ハウス栽培
甘 蔗	NCO 310	73アール	\$ 17.24	\$ 986.00	\$ 482.28	\$ 503.72	肥料、農薬 人件費など
キャベツ		20アール	\$ 2.00	\$ 1,200.00	\$ 80.00	\$ 1,120.00	肥料、農薬代
その他		15アール	0.50	\$ 75.00	\$ 30.00	\$ 45.00	養豚飼料と して
合 計				\$ 3,461.00	\$ 1,592.28	\$ 2,269.28	

※この表は過去一年間農業収入台帳から集計したもの。

第二表

68年～69年養豚収支比較表

1968年				1969年			
月 別	項 目	収 入	支 出	項 目	収 入	支 出	2 ヵ年間の純益額
1月～2月	生 子	\$ 400.00	\$ 200.00				\$ 200.00
3月	生産子豚			生産子豚	\$ 400.00	\$ 200.00	\$ 200.00
4月～5月	生産子豚	\$ 400.00	\$ 200.00	〃	\$ 350.00	\$ 175.00	\$ 375.00
6月～8月	〃	\$ 400.00	\$ 200.00	〃	\$ 300.00	\$ 150.00	\$ 350.00
9月～12月	〃	\$ 400.00	\$ 200.00	〃	\$ 280.00	\$ 140.00	\$ 340.00
合 計		\$ 1,600.00	\$ 800.00		\$ 1,330.00	\$ 665.00	\$ 1,465.00

支出金は
飼料代金

1971年度事業計画表

1970年7月	定例会、新年度事業計画
8月	定例会、日常料現講習会
9月	講習会、手芸、編物、ししゅう
10月	講習会、家庭菜園、食品衛生
11月	講習会、和服、洋裁
12月	講習会、生花、離乳食とおやつ
1971年1月	講習会、家計簿記帳
2月	定例会、料理講習
3月	定例会、つけ物講習
4月	定例会、家庭電気取扱いについて
5月	講習会、手芸講習、レクリエーション
6月	定例会、生活活動状況と懇談会、役員改選と反省会

毎月の積立金一覧表 (グループ員15名分)

年	月	積立金高	合 計	備 考
1969年	7月	\$ 46.50	\$ 46.50	
	8月	\$ 46.50	\$ 93.00	
	9月	\$ 45.00	\$ 138.00	\$ 100.00定期へ
	10月		38.00	
	10月	\$ 46.50	\$ 84.50	
	11月	\$ 45.00	\$ 129.50	
	12月	\$ 46.50	\$ 176.00	
			0.48	利 息
	1970年 1月	\$ 46.50	\$ 222.98	
	2月	\$ 42.00	\$ 264.98	\$ 200.00定期へ
			\$ 54.98	
	3月	\$ 46.50	\$ 111.48	
	4月	\$ 45.00	\$ 156.48	
	5月	\$ 46.50	\$ 202.98	
	6月	\$ 45.00	\$ 247.98	
			\$ 1.42	利 息
	7月	\$ 45.50	\$ 295.90	\$ 100.00定期へ
			\$ 195.90	
	8月	\$ 46.50	\$ 242.40	
	9月	\$ 45.00	\$ 287.40	
	10月	\$ 46.50	\$ 333.90	
	11月	\$ 45.00	\$ 378.90	\$ 300.00定期へ
			\$ 78.90	

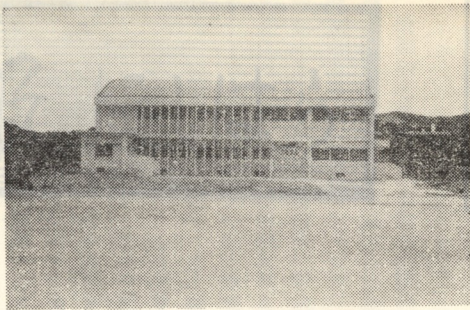
おりましたが、今年の初めごろから毎月集金するのが大変なので定例会に各自で持参するようにし、現在に至っております。毎月の積立金は普通預金にして普通預金が一〇〇ドルになったら定期預金に切替え、農協に預けております。月一ドルの貯金は出来なくても一日十セントの積立をすれば三ドルの貯金をする事が出来るんだとグループ員は毎日の積立の効果を喜んでおります。積立金制を設けたおかげでグループの集まりもよくなり活動するための年間計画も立てられるようになって、今では自分達の生活にかかせない生活必需品の共同購入や家庭菜園などもやって家庭生活にうるおいを持たせ、

生活水準を高め、健康で楽しい家庭をきずくために生活技術を学びいろいろの問題と取組みながら考える力が養われてきました。一九六九年度の村の発表会にも自分達で考えて会員の中から発表者を出すことが出来たのも私達会員の結束があったからだと思えます。このようにしてグループ活動をして行く間に独りびとりが主婦として又、母として大きく成長し、教養を高め豊かで明るい農村を築いて行くために、計画性と実践力に邁進したいと思えます。三カ年計画の積立金の目標を達成させるためにはまだ一年半余もありませんがあとひとりで会員の待望である本土旅行も出来ますので、その晩

には旅行するのみでなく本土の生活改善グループの状況も、くまなく見聞きし、グループ員との交換会も持つてより意義のあるグループ活動に発展させたいと意気込んでおります。私達の小さな努力が実って部落の発展に何らかの形で影響をおよぼし、ひいては村の発展へと続くものならばこんなうれしいことはないかと今から期待にむねをふくらませております。今後私達は本土旅行の目標達成を念頭に日々の活動に頑張っていきたいと思えますので多数の方々の御指導と御援助を仰ぎましてとりとめのない私の発表を終らせて戴きます。

◎坂田小学校に三千五百ドル贈る

エッソ・スタンダード沖繩株式会社



このほど完成したすばらしい体育館

坂田小学校（鳥袋全吉校長）に対しエッソ・スタンダード沖繩株式会社（マック・G・フークエ社長）から三千五百ドルが贈られた。その贈呈式が十二月十一日午後二時から村役所ホールで各区長、教育委員、議員、坂田小学校関係者が出席して行なわれた。坂田小学校は日本政府援助で体育館（百四十八年）を新築中だが、備品代が不足しているという。大城純勝区教育委員長は「体育館備品費の寄付をエッソ・スタンダードにおねがいたところ、こころよく応じてくれ、感謝している。体育館内部の必需施設の調達の経費に充てたい」と話していた。

めには、OHKをささえる財政上のうらづけとなる受信料収入の確保がぜひとも必要であります。ご承知のようにOHKは商業放送（コマシヤル）は一切取入れず社会的、教育的面のみの放送され設立当初からその目的で事業が進められています。他の放送社では商業放送（コマシヤル）をすることによりスポンサーからそれ相当の額が支払われ運営されていますがOHKは先にのべましたように視聴者の皆様方が納めていただく受信料のみに依存されており現在のところその受信料の納付率が低く運営に困難を来しているようでございます。視聴者の皆様方が受信料を滞納された場合はそれだけ協会の運営に円滑を欠き、従って豊かなよい番組をお送りすることも困難となります。そこで問題点としてOHKの放送をご覧になってもならないくても一定の受信料（月八十セント）を納めなければならないことです。

（放送法）それは次の見解とも放送法によって定められています。先づ基本的な構造上、または機械上、OHKの放送が受信できるように設計製作された受信機で電波が到達している地域。

（受信料） 抜萃

第十九条 協会（「沖繩放送」協会）というの放送を受信することのできる受信設備を設定した者は協会に受信料を支払わなければならない。このように視聴者の皆様は受信料を支払う義務があり、また、受信料を納めていただくことにより同協会はより一層、たのしい番組を放送することが出来るわけです。受信料をまだ納めてない方は公共放送を、みんなの手で育てる意味で今後の御協力をお願い申し上げます。

OHK

百万の暮らし に生きるOHK みんな育てよう 公共放送

沖繩放送協会（OHK）では一九六七年十月発足以来、沖繩の文化を高め、生活の向上を図る目的で多額の費用を投じて設立されて満三年目を迎えOHKから放送される番組は、おもしろい娯楽番組をはじめ、報道、教養、教育番組から、スポーツや郷土番組まで、暮らしに役だつ調和のとれた放送は住民から大変親しまれております。ご承知のとおりOHKは沖繩における公共放送企業体として、発足以来沖繩全域において放送が普及されるように全力を傾注してきております。一九六七年十二月

宮古、八重山郡両島においてテレビジョン放送を開始し、また翌一九六八年十二月沖繩中央テレビジョン放送局の開局により沖繩本島のテレビジョン放送サービスを実施し、さらに一九六九年十二月には沖繩北部地区のテレビ難視聴地域解消のために、今帰仁テレビジョン放送中継局の開局を実現しました。このようにOHKは「県民の放送局」として公共の福祉を増進するために沖繩のすべての地域に対して豊かでよい番組を送り届けることを最大の目標にしておりますが、そのた



